

実践記録

学校名 / 学年	小学校 / 6 年	
教科等：単元名	学級活動：「チェーンメールが来たら」	
キーワード	チェーンメール 対処の仕方	
情報モラル指導 モデルカリキュ ラム表における 目標	分類	☐ 情報社会の倫理 ■ 法の理解と遵守 ☐ 安全への知恵 ☐ 情報セキュリティ ☐ 公共的なネットワーク社会の構築
	大目標項目数字 大目標項目内容	c3：情報社会でのルール・マナーを遵守できる
	中目標項目番号 中目標項目内容	c3-2：「ルールや決まりを守る」ということの社会的意味を知り、尊重する
授業会場	☐ パソコン教室 ■ 普通教室 ☐ 特別教室〔 〕 ☐ その他〔 〕	
学習の目標	チェーンメールがどんなものかを知り、これらが届いたときには、次の人に回さないという判断ができる。	
使用教材	教材名	事例で学ぶ Net モラル
	製作者	広島県教科用図書販売株式会社
	入手先（URL 等）	長野市情報モラルポータルサイト「事例で学ぶ Net モラル」

○展開

	学習活動	指導 評価
導 入	1 映像クリップを見る。 2 主人公はどうしてメールを転送しようとしたか考える。	・画面に集中させる。 ・主人公の気持ちになって考えさせ、ワークシート記入後発表する。
展 開	3 自分にも同じようなメールがとどいたらどうするか、ワークシートに記入し、理由を発表する。 4 チェーンメールについて知り、対処の仕方を考える。	・自分にこのメールが来たら、次の人に転送するかしないかを考えさせる。 ・チェーンメールの特徴と問題点について映像クリップで示す。
お わ り	5 まとめの映像を見て、振り返りをする。 6 時間があったら、メールの疑似体験をする。	自分にチェーンメールが来たとき、自分のところで止めるようにしようと考えたか。 ・様子によって疑似体験を次時へ

○授業の成果

- ・小学校 6 年生では、一部の子が携帯電話を持っている。また、中学校入学に合わせて携帯電話の購入を考えている子も多い。携帯電話を持つ前に、チェーンメールについて知識として知ることや対処の仕方を知することは、子どもたちにとって必要であり、実際に興味深く授業に取り組んだ。
- ・疑似体験を通して、困ったことは大人に相談することなど、対処の仕方の大切さに気づくことができた。

○指導のポイント・留意点

- ・メールが届いたときの主人公の立場に立つことが大事である。
- ・チェーンメールに関する不安を解消する資料や話が大事である。